



INGING MOTORSPORT



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

INGING NEWS PAPER 2011 VOL.04

FREE
無料

Topics

THE ACCIDENT

アクシデントに見舞われるも、次につながる確かな手応え。

Race Report

Round.3 FUJI SPEED WAY 7/16-7/17

Round.3 FUJI SPEED WAY 7/16 - 7/17

Support by  cybernet

THE ACCIDENT

アクシデントに見舞われるも、次につながる確かな手応え。

拍動、オートボリスと開幕からの2戦では、充分なスピードを見せながらも惜しくも1ポイントに終わっているProject μ /CERUMO・INGINGと国本雄貴。パフォーマンス自体は悪くはないものの、なかなか流れに乗ることが出来ていない状況だが、今大会の舞台はF3時代に最も力を入れた富士スピードウェイ。さらに今大会は幸運へ

勝を日曜のワンデーで行うという変則スケジュールとなっているため、金曜に1回、土曜に2回と、日曜朝の公式予選までに合計3回のフリープラクティスが組み込まれているため、通常よりもしっかりと準備して予選に臨むことが出来る点とあって、チームも国本自身も期待を持ってレースウィークを迎えた。

Race Report 第3戦 2011年7月16(土)・17日(日) 富士スピードハイウェイ

Round.3 FUJI SPEED WAY 7/16 - 7/17

11番手からのスタートながら、1周目を8番手としてホームストレートへ

決勝 2011年5月14日 館座サーキット

夏休み目前の週末だけに、真夏のような暑さとなった午後2時40分、気温32度、路面温度50度という暑さの中、いよいよ決勝レースのフォーメーションラップが始まった。レース距離200km、44周のレースながら、2位の宮田が狙った決勝に向けて、チームではQ3出走を志した反面、残った2セットのニュートイヤを適か、3セットタイヤでスタートし、2回のピットインではニュートイヤを装着しスペースアップ、2回の入場を繰り返す作戦を組むことになった。

迎えたスタート、国本はまずまずのスタートを決めると、1周目のダンロップコーナーへの飛び込みなどで大膽和也、石渡宏明らを次々にオーバーテイク。11番手からのスタートながら、1周目を8番手としてホームストレートに戻ってくる。

9周目、ポイント圏内を突き進む日本の目前には、大橋に抜かれた6位の伊沢拓也が、ベースの上がらない伊沢に対し、国庫は10周目の1コーナーでアウトから並びかけると、コカコーラコーナのインでインを閉めようとする伊沢に阻む。そのドアをこじ開けるようにオーバーテイク、6番手へと陣道を果たす。

そしてチームは12周終了時に予定通り国本をヒットインさせ、1回目のタイヤ交換と給油を行うと、再び国本をコースに送り出す。同じような周回数を上位陣の何台かもヒットに入るが、ニュートイヤを得た国本は上位陣に比肩する好タイム、1分27秒608をたたき出すなどベースアップ、ポジションこそ、いったん10番手あたりまで下がついてしまったが、それを行く小事故をさじじりやと選りてつて行く。

コヤマが夢中でこの小艇を造り上げたのは国産が、23番7路の小艇がビートイン。概ねずり9番手以上とした国産は、上位の階次でビートインによって25番目以上7番手、26番目に6番手とポジションを上げて行くための、S1などではやラップタイムが落ち始めるでしょう。さらに、3番手以上とした27番目、なんと国産のエンジンが突如バグを失ってしまう。このため、急遽Project μ/GERUMO-INGINGは、半路で絶たトラブルに見舞われた日本車2台を戻しにビートインさせる。このロードショー、その多量なラップにマシンを投入してしまふ国産、すくなくもニックたちが国産のマシンに乗り代り、さら7路の模様作りに乗る。

このメカニクたちの作業により、下がっていた胎压が復活した国
本は、再びニュータイヤでピットアウトするが、この段階で残念ながら
トップからは約4周のラップダウンとなってしまう。

それでも諦めずバッシュする国本は、寛解した翌週に1分27秒501という自己ベストをマークするなど男を挫いたが、大きな後には取り戻すことは出来ずチェッカーを受けたものの、ポジションは15番手。今回こそは下り、優勝が目指せるところで、最後のトラブルが横を走るが、この苦戦は、国本の卒業を助けてくれたと、国本は感謝し、いらい

2011 SERIES

Round.

3

**FUJI
SPEEDWAY**

RACE RESULTS

[33] 国本 雄資

Time 1:07'05.345

Delay	1Lap
-------	------

Best	1'27.501
------	----------

RACE COMMENT

FUJI SPEED WAY 7/17

「また詳しい情報は隠していますが、どうやらエンジンの過圧が落ちてしまったようで、急にパワーが落ちていってしまいました。自分としては、東洋F1がなくなったところだと思いますが、チームではその少し前からセクター1で遅くなっていったので、真実を感じていたようです。もしかしらば、小暮選手の落ちるようになってから、既に気が触れていたかもしれないですね。それまでの期間としてはスターでも表彰を上げられませんでした。レース中のラップタイムも悪くなかったのに、やはりF1のレースにも慣れて、また手元も悪くなりました。ポイントが獲れなかったのですか？」

「他選手でそのラップタイムではないかなと思います。今もまだその記憶がはっきりと残っています。その記憶が僕にもよく残っています。」



2011年以降が目前であるが、日本のトナリが壊れまくる中、この
 2011年以降が目前であるが、日本のトナリが壊れまくる中、この